



2024年12月19日

各位

会社名 株式会社三栄コーポレーション
代表者名 代表取締役社長 水越 雅己
(証券コード 8119 ・ 東証スタンダード)
問合せ先 社長室
TEL : 03-3847-3500
E-mail : relation@sanyecorp.co.jp

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた当社の現状と対応について、以下の通りお知らせします。

1. 現状認識

(指標の推移)	単位	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期
売上高	百万円	33,976	38,654	36,688
経常利益	百万円	△657	258	1,248
親会社株主に帰属する当期純利益	百万円	△945	△158	538
株主資本	百万円	9,096	8,912	9,197
ROE	%	△8.90	△1.57	5.01
ROIC	%	△3.93	1.14	5.90
PBR	倍	0.43	0.43	0.69
PER	倍	△4.10	△24.39	11.96

* 2021年3月期以降、コロナ禍での小売事業の不振を主要因として、赤字決算となっていました。2024年3月期で、当期純利益ベースで四期ぶりの黒字回復となりました。現在、進行中の3ヵ年中期経営戦略『SANYEI 2025』では、黒字基調を維持強化するための重点施策として、グループ事業構造/事業ポートフォリオの再構築、及び、成長ドライバーとしてのEC事業、海外事業、サステナブル関連事業の強化を推進中です。

* 2024年3月期におけるROE及びROICは、当社が認識する株主資本コスト及びWACCをそれぞれクリアしております。但し、株主資本コスト乃至WACCについては、実際にステークホルダーが求める最低限の数値であり、実際には、それ以上を目指すべきとの観点もあること、また、CAPMにより試算される当社の株主資本コストについては、その算出ベースとなるデータについて、過去の当社の株式の流動性の低さ等の為、十分に納得性の有る数値が算出されていない可能性もあると捉えており、その値については、現時点では非公表とさせて頂いております。

* 株価及びPBRの推移について：昨年自己株取得を実施、また今年株式分割を実施したことで、市場からの注目度が以前よりも高まり、株式の流動性は改善傾向にあります。しかしながら、株価及びPBRは未だ充分には満足いただけないレベルにあり、これらは、現下の収益性が十分でないことに加えて、成長戦略を市場に十分にご説明できていない側面があると認識しています。

2. 今後の対応について

(1) 収益性の向上

当社の商社業態におけるビジネスモデルとして、大きなインフラを抱えないことが強みです。現在推進中の中期経営戦略『SANYEI 2025』では、経常利益（率）の達成を主要な KPI として設定しています。また、中期経営戦略の重点施策である事業ポートフォリオの再構築（低採算事業の合理化及び新規取組み導入）に際しても、計画策定及び検証のツールとして、従来から、各種売上高利益率を重要指標として採用しています。

一方で、限りある資源としての資本コストの効率性については、今後の経営指標としてその重要度が増していくものと認識しております。低採算事業の選別に限らず、商流の拡大、商材・サービスの拡大といった新規事業の拡大により成長戦略を遂行する中で、今後の成長スピードを加速するために、M&A も含めた新たな投資も必要と考えており、その際の計画策定の KPI の一つとして、資本コストの効率性を重要指標として捉える必要があります。

このため、2026 年度からの次期中期経営戦略については、ROE・ROIC を重要な KPI の一つとして導入いたします。商社業態として付加価値を高め、収益性、ビジネスボリュームの拡大を図るステージにある当社として、現状の資金余力を最大限に活用して、需要に対処していくに際しての判断指標の一つとして、活用して参ります。

(2) 自己資本に対する考え方

今後、成長スピードを加速していくためには、新規事業の拡大が課題であり、その過程では、M&A といった取組みも必要に応じて促進していきます。その為に、適正な投資余力を持つておくこと、内部留保の確保が重要であると考えております。

また、現在の配当方針は当社の企業理念「随縁の思想」に沿って策定・実行しておりますが、この方針を堅持し、株主配当を継続していくこと自体が、最重要事項です。

加えて、人的資本以外に大きな資産、インフラを保有していない商社として、従業員の処遇改善等を含めた人的資本への投資も重要課題の一つであり、これを踏まえた資本配分にも配慮してきております。

以上、内部留保、株主配当、人的資本投資を三本柱として、適切なバランスを取った上で、自己資本比率の適正值も探って参ります。

(3) IR 強化

現時点（2024/12 時点）での株価を前提とした当社の PBR 値については、0.7 程度であり、株価として十分なお評価を頂けていないと認識しています。PER 値については、市場平均に及ばない状況であり、現下の収益力がまだ不十分であることが示されていることに加えて、株価が企業の将来価値へのご評価の反映であることを考えると、当社の成長戦略についてのご説明が行き届いていない状態にもあると判断しています。

当社では、現在中期経営戦略『SANYEI 2025』の最終年度（2025 年度）に向けて、目標必達の為に重点施策を遂行中です。今後も、この進捗状況について、適切に各種 IR 活動の形で説明を強化すると同時に、6 割程度が個人株主である当社の株主構成（株式数ベース）を踏まえ、個人株主の方々とのコミュニケーション、IR も更に充実させて参ります。

以上